

東部公民館講座「国分寺崖線と緑のまちづくり」

若葉町から NTT 研修所までのまち歩きと、景観法（2004年6月制定）を活用して崖線の緑の保全を考える3回連続講座が開催されました。各回20名前後の参加がありました。

第1回2月17日「景観法をいかすまちづくり」は、中井検裕さん（東京工業大学教授）を講師にむかえ、「景観を守る」「なぜ景観か」など景観法が制定された背景と条例との関連の話をしきました。崖線の保全は、景観法では具体的な効力はなく保全できないが、自治体の自主条例や地区計画などを組み合わせて崖線へ影響を与えない方策や緑の創出について考えていくことが大切だとい

うことです。第2回目2月24日には、東部公民館から NTT 研修所内を含め、崖線全体をみて歩きました。参加者からは、かつては整備されていた NTT 研修所内の雑木林の保全や自然への関心が高く、あらためて崖線の保全の大切さを実感しました。第3回3月3日には、世田谷区職員からパワーポイントを用いて世田谷区国分寺崖線保全整備条例などの4つの条例について、調布市からは、全国の景観条例の制定状況、景観法から条例づくりと調布市の考え方が示されました。



世田谷区区民むけの崖線保全条例についてのパンフレット

参加者からは、特に NTT 研修所跡地の活用の今後の動きについてと、これからのまちづくりでの崖線保全への市民の関心の高さがうかがえました。講座を今後どのように活かしていくか、市民の力が試される時です。（A）



NTT 研修所敷地内の雑木林

調布の自然 生き物編 その13

春だよ、テントウムシ！

3月5日、多摩川の河原にもヒバリの声が聞こえ、例年より気温が低い日が多いにもかかわらず、やっぱり春の兆し。目をこらすとタヒバリらしき小鳥が広場の芝生に見える。環境モニターで植物調べをしていると、日当りのあちこちにテントウムシがうろうろしている。先日聞いた話ではナナホシテントウはアブラムシなどの虫以外にもジュースのようなものも食するという。だからナミテントウは冬眠するが（餌となるアブラムシがないから）ナナホシは冬でも目を覚ます。

またナナホシはナミテントウと違って集団で越冬することもない、とも言っていた。本当だろうか。その方はナミテントウがよく冬眠している小屋のどのあたりで集団越冬するかを調べたことがあるが、暖かい南側ではなく、かといって寒すぎる北側でもなく、西側に多く集まっていたとか。これは餌が無いのに暖かさで目覚めてしまうのでは困るためだろうとのこと。

あるドラマでヤジロウベエに乗ったテントウムシは頂上から飛び立とうと上を目指して登り、上までくるとヤジロウベエが傾いてまた上を目指す。永久に行ったり来たりと・・・そんなことはないだろうが、なんとなく「ヤレヤレ！」という顔つきのテントウムシの顔が目につく。幼虫の姿からは想像がつかない可愛いヤツ。（K）



ウロウロするナナホシテントウ

入間・樹林の会

3月20日は、先月笹刈りをした西側樹林地にあった伐採枝の片付けからはじめました。1ヶ月もたつと笹や伐採枝も乾燥していたので片付けも1時間ほどで終わりました。先月峯岸さんから指摘があった、伐採後の見通しをもった処理の仕方や作業が必要だったとあらためて確認しました。伐採枝の山を撤去すると崖線斜面の見晴らしもよくなり、小さなピンクのウグイスカグラの花を見つけました。キツネノカミソリもふえてきており6月が楽しみです。シャガの群生地から西側樹林地への奥への道づくりなどの保全作業をはじめ、今後の樹林地全体のイメージがいっそうひろがってきています。

地域福祉センターに戻ってから、落ち葉だめの設置場所の検討と目的、来年度の計画について話し合いました。また、中原さんから樹林地



ウグイスカグラ



モヤシ状のキツネノカミソリ？



駐車場から見た崖線下のようす

全体像と関連した作業・年間計画や作業別・ゾーン別の作業計画を作成してはどうかと提案がありました。樹林地全体が見晴らしがよくなり、道づくりも大きな課題です。どのような樹林地にしていくかも含めて来月以降、順次検討することになりました。また、これまでの方形枠調査と今後の植生調査についても意見交換しました。来月は、方形枠調査と落ち葉だめづくりにむけての検討と保全活動を行います。(安部)

雑木林塾 第6回講座

3月19日(土)10:00~14:00

市役所第4会議室 参加者14名(職員含む)

講師 倉持武彦さん(みんなの野川をみんなで考える会議)
・学んだことをふりかえり考えを深める。

講師の方を進行役に、樹林との関わりで大切だと思ふこと、調布の樹林の現状を知るには何を調べたいか、など各々気付いたことをメモし、発表していくというやり方。テキパキとした講師の指導ので、迷う間もなく頭に浮かんだことを書き留める。その結果、樹林との関わりというタイトルでは 嬉しい・楽しい 人の経験の蓄積 コミュニケーションなどがキーワードとしてまとめられた。また講座終了時には「それぞれの林には成り立ちがある」ということに気付き、保全活動をする上でその成り立ちについて、動植物・地形・歴史等について知ることが必要とわかった。

キーワードを書き出したり話し合ったりすることで、今年度学んだことが頭の中で整理されたようだ。(K)



実篤公園の春

3/26 実篤公園と付近の崖線樹林の観察会

記念館の入り口に自転車を停めると、なんと不思議な匂いが漂います。この時期一斉に地味な花を咲かせるヒサカキの香り。香りというより匂いという言葉がふさわしい程。

富田講師から植物の名前の由来など楽しいお話を聞きながらフッキソウ、シュンラン、ヒイラギネンテン、アセビ、セキショウ、フクジュソウ、カンアオイ、ツバキなど今が盛りの花を観察しました。ハランは半部地面に埋れているようなところにツボミをつけており、これは初めて見る方が多かったようです。



ハランの根元にツボミが

少し前に園内はおおがかりな樹木の整理がされ、ヒサカキ・フジなどが伐採され、「実篤が住んでいたころはこんな感じだったか」と思うような明るい雰囲気になりました。(K)

ちょうふ DE 田んぼ日記

その 21

田んぼの学校は 2001 年開校。今年で 5 年目を迎え、4 月 3 日、また開校式を行います。

去年の一年を表す一字は「天」でした。去年の夏は暑いのに、雨が少なく、用水路と田んぼの水が干上がってしまい、水辺の生き物たちも多くが死んでしまいました。今年また生き物たちが戻ってくるかどうか心配です。気象庁の予報によれば、今年の春は例年並、夏場は少々気温が上がりそうだということです。昨年未から地震や豪雪などの災害に見舞われ続けていますが、今年の気象は一体どうなるのでしょうか。長年経験しても、いまだ天候の予測はできません。

さて田んぼの現状とはといえば、土の中に埋もれた植物の種は今年も元気に芽を出し（田んぼにとっては雑草ですが）例年通りの顔ぶれを見せてくれています。レンゲもちらほら咲き始めました。生き物で言えばアリやモンシロチョウ、アブラムシやナナホシテントウ、その他いろいろな生き物が見られました。

野川の桜は 3 月 27 日にはまだつぼみでしたが、どこかで咲いているのかもしれない。調布ではどこのソメイヨシノが一番速く咲くのでしょうか？ まだまだ知らないことばかりです。

この時期は生き物たちや植物が春の目覚めを向かえ、多くの生命力を感じ、毎年再会できる喜びに胸躍る季節です。皆さんと一緒に今年も田んぼで米作りにがんばりたいと思います。今年もよろしくお祈りします。（近藤）

「親子コース」

参加資格 調布市在住の親子
（子供は小中学生）
募集数 10 組（応募多数は抽選の予定）
受講料 月 1,500 円
（10ヶ月分 15,000 円 4月に一括払い）

「田んぼ基礎コース」

参加資格 調布市在住の大人（中学生以上）
募集数 10 人（応募多数は抽選の予定）
受講料 月 1,000 円
（10ヶ月分 10,000 円 4月に一括払い）

問い合わせ：tel 0424-87-4385 尾辻
eメール kp5y-otj@asahi-net.or.jp



環境モニター

3/5（土）晴れ 参加者 10 名

講師 小澤正幸さん

AM ワンドの植物しらべ

PM 今年度の振り返りと
来年度の活動予定

オオカワジシャ



新しい会員 2 人を加えてワンド周辺の観察。ロゼットの見分けはむずかしく、いつも以上に丁寧に観察。オランダガラシやセリ、オオカワジシャ、カワジシャなどもかなり出てきていた。講師のお話でタネツケバナとミチタネツケバの違いやスズメノカタビラも在来品と帰化したものの違いなどを知る。そして昨年は気付かなかったのだが、今年はこの河原にもナガミヒナゲシのロゼットを発見した。10 年ほど前から道端のあちこちでオレンジ色の花を咲かせているケシだ。鳥はハクセキレイ、カワセミ、ツグミ、ドバト、タヒバリ？、ヒバリ？、スズメなどが確認できた。（K）

リレーエッセイ

（保全課職員担当）

みなさま方、日頃より環境行政に御協力いただき有り難うございます。調布市では、調布市内を流れる多摩川・野川・仙川および佐須用水を調査し、その河川状況を把握することに努めています。

特に、調布市内を中心に流れる野川について少しお話ししたいと思います。野川ってどんな川だと思いますか？

野川は国分寺崖線（ハケ）からの湧き水を水源とする貴重な川です。国分寺・小金井・三鷹・調布・狛江をゆったりと流れ、世田谷で多摩川と合流する全長約 20 km の一級河川です。1970 年頃の野川は生活排水が流れ込みどぶ川となりましたが、清流を取り戻し、市民が心むく水辺としてよみがえってきました。水辺に下りられる所も造られ、春には土手の両側に植えられた桜の下で花見をする人達でにぎわっています。

しかし、都市化による緑地の減少で湧水が減り、野川の水量も減少しました。さらに昨年の猛暑では、野川が枯れてしまうという異常事態まで起こりました。水量を増やす試みもいろいろ始まっていますが、何といたっても緑を減らさないで増やすことが野川にとっては大切な事なのです。

さぁ！春の季節がやってまいります。野川で花見というのはいかがでしょうか？ （大城）

イベント情報

環境モニター

日時：4月2日(土) 10:00~12:00
(会員は9:30集合)

場所：京王相模原線鉄橋下流オギ原
内容：植物調査(多摩川堰付近)
持ち物：ルーペ、カメラ、図鑑、筆記用具
新会員募集!! 詳しくは保全課へ

雑木林塾自主講座

日時：4月9日(土) 10:00~12:00
場所：深大寺自由広場入口

内容：かに山植物調査
日時：5月21日(土) 10:00~12:00
持ち物：ルーペ、カメラ、図鑑等
新会員募集!! 詳しくは保全課へ

人間・樹林の会

日時：4月17日(土) 9:30~12:30
(会員は9:30集合)

場所：入間地域福祉センター
内容：方形枠調査, 保全活動
持ち物：軍手・作業用服装

勉強会

日時：4月18日(月) 18:30~
場所：市役所第4会議室
内容：自然環境保全計画の見直しについて
講師：小豆畑(環境保全課課長)
~ぜひ、ご参加ください~

2005 アースデイ in 調布

日時：5月7日(土) 10時~15時
場所：市役所 前庭
テーマ <私が変わる。私たちの地球環境>

【編集後記】

街中は、マスクの人人人。今年は例年になく多くの方が花粉症に悩まされているとのこと。海外では、マスクをすることは珍しいというが、日本の文化として伝播するのもそう先は遠くないかも...(A)

神代植物公園

温室ではムユウジュの花が咲きました。



無憂樹

この木は仏教の3大聖樹の一つで3月から6月に開花し、ビルマの伝説では、お釈迦様がこの木の下で生まれたとされています。

仏教の三代聖樹
無憂樹(生誕)
菩提樹(成道) 釈迦が悟りを開いた木
沙羅双樹(涅槃) 釈迦が入滅の時に花が灰色に変じるといわれる木

< 運営会議報告 > (3月3日開催)

全体会について 良い点・みんなの広場の場所・展示物が充実してきた・体験コーナー
反省点・展示期間中も案内がいると良い・「全体会」という名前や広報の仕方を工夫する

05年度の懇談会のあり方について

- ・市内の自然環境の課題を共有する場にしたい
- ・各活動の連絡・連携の役割を充実させたい
- ・調布市環境管理計画の見直しについて
- ・事務局体制について
- ・勉強会の開催について
等が話された。



< 会議のスケジュール >

日時	場所	活動名/内容
4月4日(月) 18:30~20:30	たづくり 301 会議室	環境市民懇談会 運営会議
4月18日(月) 18:30~20:30	たづくり 301 会議室	人間・樹林の会 世話人会

ちょうふ環境市民懇談会は、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」といった活動をパートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。ぜひ、様々な環境保全活動へ参加してください。

お問合せ先：調布市環境部環境保全課
TEL：0424-81-7086

E-mail：kankyou@w2.city.chofu.tokyo.jp

発行：ちょうふ環境市民懇談会